



小郡市立大原中学校だより

大為小積



令和4年 如月10日

第25号

校長 矢野 晴一

学校教育目標:「自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする子どもの育成」※「考動」

「負けるものか！ みんなでふんばっています」

さまざまな活動が制限される中で・・・

1月27日(木)から2月20日(日)まで、福岡県にまん延防止等重点措置が出されたことにもよる、部活動も停止、合唱活動も停止、2年生の修学旅行や1年生のフィールドワークも延期・・・と、さまざまな点で我慢しなければならない状況が続いています。

そのような困難な状況の中、かけがえのない仲間との日々を愛おしむように、懸命に学校生活を送っている子どもたちの姿をみると、たまらない気持ちになります。

授業についても、音楽や保健体育等、活動そのものが制限されている教科もあります。特に、合唱については例年だと「おくる会」や「卒業式」に向けての取組を行っているところですが、今、校内から歌声は聞こえません。

先生たちも、苦しい思いを抱きながら、どうしたら安全に活動ができるのかを考えぬいて、子どもたちのために工夫を重ねた授業を展開しています。

「卒業式はどうなるのだろう」「おくる会はどうなるのだろう」「お別れ合唱会はどうなるのだろう」・・・これからもさまざまな不安、あせりとたたかう日々が続きますが、大原中学校全員で歯をくいしばって、知恵を出し合って乗り越えてまいりたいと思います。

保護者のみなさまも地域のみなさまも、同様の思いをなさっているのではないかと拝察いたします。今後も状況を見極めながら判断し、連絡させていただきますので、なにとぞご理解のほどお願いいたします。

できるのか
あせりと不安
ぬぐっては
負けるものかと
歯をくいしばる
晴一

「がんばれ3年生」 団体戦で・・・！

今、毎朝はやめに登校して勉強している子どもたちに出会います。昼休みに教室をのぞいてみると、面接の練習をしている風景があります。友達のために面接官の役をしてくれている子どももいます。

まさに、団体戦の姿です。**仲間と支え合いながら、おしよせてくる試練を乗り越えようと奮闘している**3年生の子どもたちの姿に感動しています。

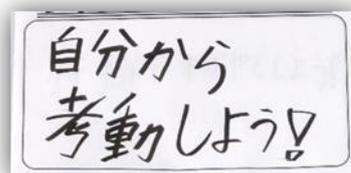
「がんばれ2年生」 リーダーへ・・・！

修学旅行の延期を伝えてから、少し元気をなくしていないかを心配していましたが、子どもたちは、私の想像をこえて、もう前を向いて歩みはじめています。リーダーたちは、「修学旅行」だけでなく、並行して「おくる会」の準備もはじめていました。

「絶対にできる！」と信じて笑顔で力を尽くしている2年生の子どもたちの姿に感動しています。

「がんばれ1年生」 先輩へ・・・！

1年生の教室をのぞくと、リーダーたちが設定した週の目標が掲示してありました。そこには何と、「**自分から考動しよう**」と記してありました。「**考動**」は、大原中の学校教育目標です。それを**日々の生活の中で実践し成長しようとしている**1年生の子どもたちの姿に感動しています。



「目的は学びの保障！」 オンラインのあり方

令和3年度、タブレット端末が一人一台配られました。現在、学校での活動はもちろん、家庭と学校をオンラインでつないでの活動も可能になり、ICTを活用した学習活動が推進されてきています。

本校でも、昨年6月17日(木)にタブレット端末を持ち帰っての「ZOOM」体験を終えており、以後、「ZOOM」や「TEAMS」を活用しての活動も複数回行ってきております。

日本全国の学校に激震が走った令和元年度末から2年度のスタート時、長期におよぶ休業期間の中で、不安やあせりとたたかい続けた日々ことは決して忘れることはありません。これから先、あのときと同じような状況にならないとは言いきれません。学校・学年・学級の閉鎖や出席停止等によって子どもたちの学びに遅れか生じてはなりません。

オンライン学習の目的は、「子どもたちの学びを保障すること」ただ一つです。

本来、学校は、子どもたちや先生たちが顔を合わせて、笑い合ったりぶつかり合ったり寄り添い合ったりすることで、大きく成長していく場です。授業も、教材を介して先生と子どもたちが互いに響き合うことで営まれるものです。そのあたりまえがなくなってきた状況を経験した私たちは、オンライン配信による学習の必要性も実感しています。

だから、やむをえずオンライン学習を活用するときには、「便利さとその裏側にある危険（肖像権・パスワードの管理・データの管理等）」を認識した上で、友達や自分の身を守ることを前提にして活用することが求められると思います。

なにとぞ趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。



「あらためて感謝です！」 学校給食週間に寄せて

1月24日(月)、お昼の校内放送で栄養教諭の石橋先生が伝えてくれたお話を紹介します。

学校給食は、明治22年に山形県の鶴岡市にあったお寺のお坊さんが、勉強する子どもたちのために、お昼ご飯をつくって食べさせたことがはじまりです。当時のお昼ご飯は、おにぎりや焼き魚、漬物でした。

その後、給食は、戦争のために中断されていましたが、戦後の食糧難により、児童の栄養状態が悪化したことから、その必要性が叫ばれて、再開されることになりました。

まず、昭和21年12月24日に東京、神奈川、千葉の三都県で試験的に実施することになり、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われました。その日を「学校給食感謝の日」と定めていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日～30日を「学校給食週間」としました。

毎日、あたりまえのように食べている給食にも、そのような歴史があるのだということを知ると、私たちの身の回りにある「あたりまえ」には、「あたりまえではない歴史や見えない努力」があるのだということを感じることができます。

ある教室の後方黒板に、「給食センターの方々に感謝の思いを伝えよう」という掲示がありました。あらためて、何事にも「感謝」の気持ちを忘れないようにしなければならぬと思いました。

小さいけれど大きな感動 その25 「登校時の小さな考動・・・！」

1月19日(水)、いつものように校門で朝のあいさつを行っている時、二人の生徒が声をかけてきました。

「校長先生、これ道路に散らかっていて、散歩している犬がけがをされるといけないと思って拾ってきました。」

手には、ペン等の砕けた破片が握られていました。先のとがったかけらもあって危ないと思い、私はそこで預かりました。

重いカバンを背負っての登校中、気づくことはあっても、通り過ぎてしまうことが多い中、「気づき、考え、判断し、そして行動につなげた」子どもたちの姿に感動を覚えました。まさに、「考動」の姿だと思いました。

二人の後ろ姿が、朝の陽光を浴びてとてもまぶしく輝いて見えました。

